



↑ りんご



↑ かき

ももが福島県で本格的にさいばいされるようになったのは、1902年ごろといわれています。あぶくま川ぞいの場所にさいばいされ、広がっていきました。1956年からの11年間は、全国一の面積^{めんせき}でした。しかし、1969年からは、山梨県^{やまなし}について第2位となっています。

また、本県のなしは、1880年に福島市でさいばいされたのが始まりといわれています。

福島盆地^{ぼんち}のくだもの農家の人たちは、どのようにくだものをさいばいをしているのでしょうか。



① **せんてい**
実が大きく育つように、えだの一部を切りとります。



② **てき花**
よぶんな花をつみます。



③ **色づけ**
シートをしき、ももに色をつけます。

ももづくりの仕事はどのようなさされているのでしょうか。

(1) ももづくり

きょうすけ 京助さんは、ももづくりについて調べてみました。



「実をたくさんつけるために、えだを切ったり、よぶんな花をつんでしまったりするんだね。」



↑ あかつき



ももをつくっている方の話

ももは、7月の中ごろから、9月の始めごろまでがしゅうかく時期です。福島県では、「あかつき」というしゅるいのももを作っている畑が多いです。ほかに「はくおう」なども作られています。